

シリーズ名：行動科学

月日	曜日	時限	授業タイトル	講義担当者		授業終了後に説明できる事項	事前学習
				氏名	所属		
4.11	水	V	行動科学がなぜ必要か	伊野 美幸	医学教育研究	1. 良医の条件が説明できる。 2. 良医の実践に社会的、心理学的素養が必須であることが説明できる。 3. 自分に足りない部分を説明できる。	web class資料（行動科学）を熟読しておくこと。
		VI	プロフェッショナリズム	望月 篤	医学教育研究	1. 医師の役割と行動について説明できる。 2. Narrative-based Professionalismについて説明できる。 3. Transformative learningについて説明できる。	〃
4.18	〃	V	行動科学、あるいは心理学とは？	石井 辰典(非)	東京成徳大学	心理学がどのような学問であるかを説明できる。	〃
		VI	「私」の社会的形成1	〃	〃	自己概念の形成における他者・社会の影響について説明できる。（社会的比較理論、反動的自己、自己確認過程など）	〃
4.25	〃	V	「私」の社会的形成2	〃	〃	自己の在り方が他者関係・集団関係により変動しうることが説明できる。（作動自己概念、関係的自己、集合的自己、文化的自己観など）	〃
		VI	人の行動を左右する社会的要因1	〃	〃	権威ある人物からの命令や、与えられた役割による自らの行動が変容しうることが説明できる。（Milgramの”アイヒマン実験”、Zimbardoの”模擬監獄実験”など）	〃
5.09	〃	V	人の行動を左右する社会的要因2	〃	〃	他者がいるだけで課題成績に影響が出ることや、人々の多数派への同調傾向について説明できる。（社会的促進・手抜き、多数派同調、集団意思決定など）	〃
		VI	人の行動を左右する社会的要因3	〃	〃	意図的に他者に行動変容を生じさせる過程について説明できる。（説得的コミュニケーションなど）	〃
5.16	〃	V	自己理解に潜むバイアス1	〃	〃	自分についての理解が、一種の”つじつま合わせ”として生じる場合があることを説明できる。（認知的不協和理論、自己知覚理論など）	〃
		VI	自己理解に潜むバイアス2	〃	〃	自分の経験する感情の真の理由に気がつかない場合があることを説明できる。（情動の抹消起源節、情動の要因理論、逆偽薬効果など）	〃
5.23	〃	V	自己理解に潜むバイアス3	〃	〃	自分の捉える自己イメージが”いびつな”イメージであることを説明できる。（自尊感情、自己高揚バイアスなど）	〃
		VI	他者理解に潜むバイアス1	〃	〃	他者の気持ちや考えについての推論が”自分”を基準に行われやすいことを説明できる。（自我中心性バイアス、合意性推測の誤り、スポットライト効果など）	〃
5.30	〃	V	他者理解に潜むバイアス2	〃	〃	他者の印象形成に、紋切り型イメージ（性別イメージなど）が使われやすい傾向について説明できる。（ステレオタイプ化、期待確認など）	〃
		VI	他者理解に潜むバイアス3	〃	〃	「他者が取る行動には、他者の心が反映されている」と考えることの落とし穴について説明できる。（対応バイアス、行為者-観察者バイアス、公正世界信念など）	〃
6.06	〃	V	終末期医療に伴う心理学的諸問題	久田 満(非)	上智大学	終末期医療に伴う患者の意思決定の問題や、心理的疼痛コントロール等について理解できる。	事前資料なし
		VI	終末期医療に伴う心理学的諸問題	〃	〃	終末期医療に伴う家族のストレスや、グリーフケア等について理解できる。	〃

月日	曜日	時限	授業タイトル	講義担当者		授業終了後に説明できる事項	事前学習
				氏名	所属		
6.20	水	V	協力行動の心理学1	石井 辰典(非)	東京成徳大学	多数の人間の協力が必要な社会問題（環境問題など）についてゲーム理論からの分析・説明ができる。（社会的ジレンマ、囚人のジレンマなど）	web class資料（行動科学）を熟読しておくこと。
		VI	協力行動の心理学2	〃	〃	社会的ジレンマ状況の解消に関わる方策について理解・説明できる。（サンクション、社会的交換ヒューリスティックなど）	〃
6.27	〃	V	道徳・正義の心理学1	〃	〃	道徳・正義をめぐる様々な立場について説明できる。（功利主義・自由主義・人道主義、カントの義務論など）	〃
		VI	道徳・正義の心理学2	〃	〃	道徳的判断の心理学的基盤について説明できる。（分配の公正、道徳基盤理論など）	〃
7.04	〃	V	大災害時の医療者の役割	久田 満(非)	上智大学	サイコソジカルファースト・エイドの概念や、被害者の支援をする者のストレスについて理解できる。	事前資料なし
		VI	大災害時の医療者の役割	〃	〃	被災者の心理的問題や、多職種や地域内緒機関との連携の必要性について理解できる。	〃
7.11	〃	V	医療現場のコミュニケーション1	鈴木 昌子	聖マリアンナ医科大学看護専門学校	1. 患者・家族とのコミュニケーションの在り方が理解できる。 2. 臨床現場での自身の振る舞いを自覚できる。 3. プロセスレコードを用いたリフレクションを通して、省察的実践の必要性が理解できる。	web class資料（行動科学）を熟読しておくこと。
		VI	医療現場のコミュニケーション2	〃	〃	1. 患者・家族とのコミュニケーションの在り方が理解できる。 2. 臨床現場での自身の振る舞いを自覚できる。 3. プロセスレコードを用いたリフレクションを通して、省察的実践の必要性が理解できる。	〃
7.18	〃	V	医療現場のコミュニケーション3	〃	〃	1. 患者・家族とのコミュニケーションの在り方が理解できる。 2. 臨床現場での自身の振る舞いを自覚できる。 3. プロセスレコードを用いたリフレクションを通して、省察的実践の必要性が理解できる。	〃
		VI	医療現場のコミュニケーション4	〃	〃	1. 患者・家族とのコミュニケーションの在り方が理解できる。 2. 臨床現場での自身の振る舞いを自覚できる。 3. プロセスレコードを用いたリフレクションを通して、省察的実践の必要性が理解できる。	〃
8.22	〃	V	NBM: Narrative Based Medicine 1	藤谷 博人	スポーツ医学	1. 各症例に流れる文脈を理解できる。 2. 人の人生に影響を及ぼすことの意味を理解できる。 3. 「Bad News」を患者と共に乗り越える素養を身に着ける。	〃
		VI	NBM: Narrative Based Medicine2	〃	〃	1. 各症例に流れる文脈を理解できる。 2. 人の人生に影響を及ぼすことの意味を理解できる。 3. 「Bad News」を患者と共に乗り越える素養を身に着ける。	〃
8.29	〃	V	Cbd: case based discussion1	岩倉 拓(非)	神経精神科学	1. 症例を通して臨床の「場」で揺れ動く関係性を理解できる。 2. 患者-治療者関係性の構築の重要性を理解できる。 3. スタッフの連携の重要性を理解する。	〃
		VI	Cbd: case based discussion2	〃	〃	1. 症例を通して臨床の「場」で揺れ動く関係性を理解できる。 2. 患者-治療者関係性の構築の重要性を理解できる。 3. スタッフの連携の重要性を理解する。	〃